

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年7月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	0177100260		
法人名	有限会社 フローラ		
事業所名	グループホーム 上砂川		
所在地	空知郡上砂川町下鶉南2条1丁目3番地 電話： 0125-62-5252		
評価機関名	(株)社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年7月16日	評価確定日	平成20年7月25日

【情報提供票より】 (平成20年 6月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年2月 1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	16人 常勤12人, 非常勤4人, 常勤換算13人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000円	その他の経費(月額)	高熱水費:25,000円 暖房費(10-4月):9,000円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(20000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800円	

(4) 利用者の概要(6月20日現在)

利用者人数	17名	男性	5名	女性	12名
要介護1	4名	要介護2	7名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 78歳	最低	61歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	明円医院 砂川ファミリー歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム 上砂川」は、砂川駅から車で10分ほどの緑に囲まれた住宅街に立地している。車道から離れた下鶉団地の一角にあり、玄関の正面は広い駐車場になっているので日常的に戸外に出ることができる。道外にある法人の運営者は年に数回来訪し、ホームの生活を管理者に一任している。開設から関わっている管理者は「家族のような当り前の生活」を大切にしている。利用者との会話から「温泉に行きたい、海に行きたい、墓参りに行きたい、外食したい」などの希望を把握し、実現できるように努めており、地域での人脈を生かし、それぞれの外出行事に送迎サービスを依頼し、出かけている。管理者と職員は安全に配慮して利用者の自主的な生活スタイルを支えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者は自己評価、外部評価の意義を理解しているが、事業所個々の特徴を生かした取り組みのあり方について考えているところであり、前回の取り組み項目は検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価を職員全体で完成するまでに至っていないが、その中で出来ることから話し合い取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はできるだけ2ヶ月ごとの開催に努め、ホームの状況や前回の外部評価の結果も報告し、会議での意見はサービスに反映している。管理者は市の担当窓口を訪問し情報交換に努めている。また、市が運営している看護学校の研修生を受け入れている。認知症高齢者の自然な姿に接し理解してもらえるよう、熱心に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月発行のホームたより「わけわかめ」を手書きにし、行事や利用者が得意とする活躍ぶりを載せ報告している。送付時には金銭の出納状況や健康の状態についても添えている。家族の訪問時には、よく聞くように配慮しており介護計画送付時に意見や要望を聞く工夫などもしている。家族の繋がりが薄い利用者も多く、双方の関係を修正しながら対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内会には加入していないが、町内の盆踊りや敬老会に参加し、地域での高齢者誕生会やカラオケ愛好会等に出かけ地元の人との交流はある。近所の人々がホームを訪れ、裏の野菜畑で利用者と一緒に育てたり、日帰り入浴を誘いに来た時は付き添いをお願いするなど、近隣とは自然な付き合いをしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域のなかで生活を支援する」内容の法人理念とホーム独自の理念があり「心も体もゆったりと楽しく安心して自分らしく暮らせるように援助する」との実現を大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットに理念を掲げ、ホーム案内の「ご利用のしおり」にも載せている。職員採用時には理念の大切さを伝え、職員は日々のケアの中で理念を振り返り確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には加入していないが、町内の盆踊りや敬老会に参加し、地域での高齢者誕生会やカラオケ愛好会等に出かけ地元の人との交流はある。近所の方がホームを訪れ、裏の野菜畑で利用者と一緒に育てたり、日帰り入浴を誘いに来た時は、付き添いをお願いするなど、自然な付き合いをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回は事情もあり、管理者が中心になり、職員全体で自己評価を完成するまでに至っていない。自己評価、外部評価の意義を理解しているが、事業所個々の特徴を生かした取り組みのあり方について考えているところである。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はできるだけ2ヶ月ごとの開催に努めている。入居状況やホームの行事などを伝え、情報交換を中心に話し合っている。前回の外部評価の結果も報告し、会議での意見はサービスに反映している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は担当窓口を訪問し情報交換に努めている。また、市が運営している看護学校の研修生を受け入れ、認知症の普段の生活に触れて理解してもらえるよう、熱心に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月発行のホームたより「わけわかめ」を手書きにし、行事や利用者が得意とする活躍ぶりを載せ報告している。送付時には金銭の出納状況や健康の状態についても添えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時によく聞くように配慮しており、状態に応じて対応の方針を話し合い家族の意向を聞いている。介護計画送付時に、意見や要望を聞く工夫をしている。家族の繋がりが薄い利用者も多く、双方の関係を修正しながら対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動は行っていない。顔馴染みの職員が辞める時は、早めに利用者に説明し理解してもらっている。辞めることを受け止めているので特に不安な面は見られないがコミュニケーションで配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人は道外にある。現状では管理者が中心に外部研修に参加し、その内容を報告している状況である。研修は自主的な参加になっており一部の職員に留まっている。勤務体制もあり全職員が参加するには難しい課題を残している。内部研修では排泄ケアや在宅酸素の取り扱いなど、関係者を招いて勉強会を開いている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の「認知症管理者連絡会」には入会していない。管理者は「上砂川町認知症老人と歩む会（さつき会）」など、地域ネットワークづくりや勉強会で交流を図っている。職員は個別に他グループホームのスタッフと交流があり見学や情報交換をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時に、本人、家族の見学をすすめ、昼食を一緒にして、ホームの生活を分かってもらうように工夫している。本人の納得が得られない場合は、入居後の状態を観察しながら個人の状態に合わせて対応し、徐々に環境に慣れて貰えるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜作り、菊作り、庭の草取りなど、利用者から得意なところを教わり、共同作業をしている。利用者は靴下を編んで職員にプレゼントしたり、職員の大変さを感じ取り、新しい人が慣れるまで、見守りや会話をして協力することもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	チラシの広告や新聞の地方版からイベントを見て、食べたい物、行きたい所など、すぐ実行するようにしている。回転寿司、バイキング・ラーメン・海水浴・日帰り温泉など選ぶ場面を作り対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時には、「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」のシートを活用し職員全員で話し合いを行っている。担当者が原案を作成し介護支援専門員の監理を受け、家族に承諾を得ている。その際は、介護計画に対する要望書を同封し家族からの意見を反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の長期目標は3ヶ月に設定し見直しを行っている。退院時や病状に変化が生じた場合は本人や家族の意向や医師の意見を参考にして、現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	点滴などの医療処置が必要となった場合は、受診や往診の医療サービスを利用することで入院を回避している。受診は公共交通機関やハイヤーを利用し通院介助を行っている。高齢者が多いという地域特性があり、近隣の人々の訪問や電話での介護の相談窓口として事業所の多機能性を活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に従来からのかかりつけ医とグループホームの協力医療機関のどちらの受診も可能であることを説明している。かかりつけ医の受診は家族対応であるが難しい場合は職員が通院の介助を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	方針に関しては文書化はしていないが、本人や家族等、医師と話し合い訪問往診を利用しながら、開設以来4名の看取りを行っている。また、運営規定に継続的な治療や入院が必要となった場合は退去となることを入居時に説明し、できないことを明らかにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は利用者に対して命令口調や指示するような言葉かけをしないよう職員に指導している。利用者と職員との人間関係が築かれている場合は、一人ひとりに適した名前や言葉を選び日常生活の支援を行っている。排泄などの言葉かけは周囲の状況に配慮し、本人の誇りを傷つけないようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に基づいてゆったりと暮らすことができるよう、日課は決めていない。利用者との会話から「温泉に行きたい、海に行きたい、墓参りに行きたい、外食したい」などの希望を把握し、実現できるように支援している。飲酒の習慣がある利用者には昼食時にアルコールを用意している。また、玄関の横に灰皿を置き喫煙できるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、予め作成しないで前日に職員が利用者の希望を聞き、食材を購入し調理をしている。鮭などの魚は切り分ける前の姿を見てもらうことで食欲の増進を図っている。焼きたてパンや移動販売車などの利用、無農薬飼料で育てた卵を購入し「生卵の日」を設けている。畑から野菜を採ってきてもらったり、野菜の下処理や下膳、食器洗いなどの支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯は決めず、一人ひとりのタイミングに合わせて入浴ができるようにしている。入浴を自ら希望する利用者は少ないため、無理強いしないよう言葉かけに配慮している。同性介助に徹しているが勤務体制の調整が難しい場合は、本人と話し合い承諾を得ている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	建物の裏手にある畑には、とうきび、長ネギ、じゃが芋などの野菜を育てており食材として活用している。苗を植えたり、草とりなどの手入れは地域の人々の協力を得て利用者が行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車道から離れた下鶉団地の一角に位置し、玄関の正面は広い駐車場になっているので日常的に戸外に出ることができる。畑の手入れや散歩、近隣の会館でのカラオケや飲食店の送迎サービスを利用して回転寿司やバイキングを楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関やユニットの出入り口には鍵をかけていないので地域の人々や家族等が気軽に訪れている。玄関が開くとチャイムが鳴るシステムとなっており、玄関の正面に事務室があるので出入りを把握することができる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルや連絡網を作成し職員や利用者の役割分担を整えている。年に2回、消防署の協力を得て利用者と避難訓練を実施しているが日程は職員に知らせていない。高齢者が多い地域のため町内会の協力は得ていない。	○	運営推進会議の議題に取り上げ地域住民との相互の協力体制を整えていきたいという意向があり、その実現に期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量のチェックが必要な利用者には日々の日誌に記録し職員間で情報を共有している。摂取量が少ない場合は言葉かけをしたりゼリーなどで補っている。管理者が毎食のカロリーを計算し一日の大まかな総カロリーを把握している。管理栄養士による専門的なアドバイスは受けていない。	○	市町村との連携を図り、保健センターなどの管理栄養士による専門的なアドバイスを受けたいという意向があり、その実現に期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の前には色とりどり季節の花のプランターが飾ってある。居間の天井は天窗となっており、自然光が差し込んでいる。台所はカウンター式となっているので調理や後片付けをしている時も職員、利用者が互いに顔を見ることが出来る。トイレ、脱衣所の戸はアコーディオンカーテンを使用し換気に配慮している。使いやすいようにトイレ、洗面所、洗濯機、浴室を一箇所にとめている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の生活環境を再現することができるようベットなどの家具を持ってきてもらうようにしている。居室に洗濯物を干すために、つっぱり棒などで工夫したりカーペットを敷いて床に座る生活ができるよう支援している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。